

京都エネスコ

2024年（令和6年）1月号

編集・発行 京都ユネスコ協会事務局



京都ユネスコ協会は次世代育成 SDGs 協働学習で世界寺子屋運動と向き合いました。

そして、いよいよこの1月と2月の期間、日本ユネスコ協会連盟の「書きそんじハガキ・キャンペーン」で、はじめの一步を踏み出します。

アジアの非識字に目を向け「自分事」として関心をお寄せください！
SDGs 1（貧困） SDGs 4（教育） SDGs 5（ジェンダー） SDGs 8（働きがい）
SDGs 10（人や国の不平等） SDGs 16（平和）にアプローチします。

目 次

ごあいさつ	吉田敦彦	p 2
ユネスコ協会クラブ連盟の世界大会に参加して	吉田敦彦	p 3,4
ーいま、「国を背負う」ことの意味を問うー		
京都ユネスコ芸術展 2 0 2 4	岸上ゆか	p 5
日本ユネスコ運動全国大会 i n 富士吉田に参加して	加藤功治	p 6
英国ユネスコスクール主催 京都行事の後援と交流の協力	香戸美智子	p 7
懇話会	西川昭寛	p 8
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会に出席して	長野博	p 9
第 6 2 回 京都ユネスコ協会「自然観察展」	事務局	p 10
SDGs 達成に向けた次世代育成の活動 2023	江木恵璽子	p 11,12
(SDGs 協働学習 in 同志社小・中)		
日本語教室	西川昭寛	P 13
英語教室 「縁彼人倶」(encouraging) walk	前田久夫	p 14
今後の活動予定	事務局	裏表紙

ご あ い さ つ

吉田 敦彦

新しい年を迎え、ご挨拶申し上げます。

相大二郎会長より命じられまして、僭越ながら代行いたします。

1月1日の能登半島大地震で被災された方々など、越冬の厳しさを抱えた各方面に思いを馳せると、新春祝いの言葉は控えさせていただきます。

旧年は、長期化するウクライナに加えて、ガザでの戦闘により幾多の人命が奪われるなど、戦争による人道被害も深刻化しました。第3次世界大戦の構図も生まれ、「新しい戦前」と言われる今日、二度と戦争の惨禍を繰り返さないとの決意で大戦後に誕生したユネスコにとって、試練の時代に入っています。その最中、去る10月末に、パンデミックが明けて数年ぶりの世界ユネスコ協会クラブ連盟の世界大会が韓国・ソウルで開催されました。オブザーバー参加ができ、あらためて今の時代に取り組まれる民間ユネスコ運動の現状と意義を学ぶことができました。これについては、レポートを作りましたので、本機関誌に転載させていただきます。

11月には、ユネスコ総会が開催され、重要な「平和、人権、持続可能な開発へ向けた勧告」が採択されました。1974年に発出されたユネスコ国際教育勧告の50年ぶりの改訂です。この新勧告について、いま国際教育理解学会で解説を進めていますが、この危機の時代に応答すべく世界各国が国際協力を行う方向性を打ち出した重要なものです。新年の1月25日、26日、27日に、それを学び合うシンポジウムを企画しています。ユネスコ協会連盟からの登壇もあり、オンライン無料参加が可能ですので、ご関心があれば覗いてみてください (<https://forms.gle/2YFE1csbtVCPJu657> から申し込みができます)。

明るく祝賀できる世相だと言えませんが、このような時にこそ、ともに希望を見出していきたく思います。良い一年を創りだしていきましょうように祈念して、ご挨拶にかえさせていただきます。

p s 冬休みに、思い立って安全保障理事会がガザ和平を審議中の国連本部を訪ね、日本が送った「平和の鐘」を拝しました(写真)。



ユネスコ協会クラブ連盟の世界会議に参加して —いま、「国を背負う」ことの意味を問う—

吉田 敦彦（京都ユネスコ協会副会長、大阪公立大学教授）

ウクライナの戦禍が続き、ガザへの地上侵攻が迫るなか、今秋に世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）の世界会議が韓国・ソウルで開催された。ユネスコ（国連教育科学文化機関）にはグローバルサウスの加盟国も多く、世界各国から戦争の両サイドと連なる国々の参加者が集う。これに参加し、見聞きしたりリアルな会話を紹介して、持ち帰った答えの出ない問いを共有したい。

世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）

まず、国連の機関であるユネスコの公認 NGO として影響力をもつ世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）について。ユネスコ憲章の冒頭の一節「戦争は人のこころの中に生まれるものがあるから、こころの中に平和のとりでを築こう」は広く知られているだろう。この理念の下に、草の根で市民が活動しているクラブや協会が世界各地にある。筆者は地元の京都ユネスコ協会の会員。近畿ブロックで約30、日本全体で300 足らずの協会が活動している。その全国的なネットワークが日本ユネスコ協会連盟。アジア地域の他の国々にある同様のナショナルレベルの連盟が繋がってアジア連盟（AFUCA）を、さらにアフリカや欧米やアラブ圏や中南米の地域レベル連盟が連帯して、世界レベルの WFUCA を結成している。

草の根の個々人が、こうして国境を越え、マルチレベルで連帯しているのが世界連盟 WFUCA である。ユネスコ憲章前文には、「平和は、政治的経済的な取り決めだけでは確かなものにならず、人々の知的精神的連帯によってこそ」と謳われているが、それを体現しようとしているわけだ。

日本の連盟の歴史的な、そして現在もつづく貢献

このような民間ユネスコ運動の発祥の地は日本である。1947年に仙台で、続いて京都、神戸で、もう決して戦争はしないとの誓いからユネスコ憲章に賛同した市民たちが、ユネスコ協力会を立ち上げた。それがモデルとなって日本各地、世界各地に広がっていった。

今回の第10回世界会議でも、日本ユネスコ協会連盟の鈴木佑司理事長が、デリケートな調整の必要な世界連盟の会長選挙の管理委員長を務めた。そして、次に述べる、目下の戦禍に対する声明をこの世界会議で発出すべきとの提案を行ったのは日本連盟の前理事長（現世界連盟顧問）の野口昇氏。氏の提案の直後に、イタリア（だったと記憶するが）の出席者が発言し、日本の大戦後の市民たちのユネスコ平和運動を紹介しつつ、それが私たちの原点であること想起して提案に賛同したい、と熱く語られたのは印象的だった。そして、声明案を起草して会議中に審議する合意が得られた。

声明「世界平和のためのアピール」をめぐる議論

世界会議の終盤に、野口氏が起草した原案が提案された。文面のなかには、ウクライナや中東などの具体的な名称が記されていた。まずロシアからの参加者が、今般の戦争の背景にあるロシア側からの論理を展開する。それに続いて中東をめぐるでも不法に暴力的な占拠をしているのはどこの国であるか、中東だけでなく世界各地で同様の火種と紛争が続いているのをどう考えるのか、といった激しい議論が巻き起こった。その場の雰囲気からは、これではとても声明はまともにならないと思われた。

議論の座長をしていた野口氏は、タイミングをみて次のような修正提案を行った。具体的な国名、地域名を出すことで意見対立が生まれる。だからと言って、人が殺され、人道的に許されない惨禍が続いていることに、黙っていることはできない。それを止めなければならないことには出席者の皆が賛同で

きるだろう。国名・地域名を出さず、しかし現に行われている人道的な危機に対する深刻な懸念を表明しよう、と

その修正提案が出された途端に、緊迫した場の空気が転換した。もともと各地で平和のための活動をしている出席者たちである。我に返ったように、その案に皆が賛同し、拍手で採択された。

——その声明「世界平和のためのアピール」の邦訳を次に掲載する。

世界平和のためのアピール

世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）を代表する私たちは、2023年10月26～29日、第10回世界大会出席のために韓国のソウルに集まった。

大会期間中、WFUCAのメンバーの各国連盟が行っている様々な活動や、今後の活動のあり方について話し合った。私たちの主な目的は、国、地域、国際レベルでの具体的な活動を通じて、一般の人々、特に若い人々の間にユネスコの理念をさらに広めていくことである。私たちは、ユネスコ憲章前文に謳われているユネスコの崇高な理想と原則へのコミットメントを再確認した。

世界平和の実現というユネスコと国連の至高の使命を尊重する一方で、私たちは現在の世界のいくつかの地域が直面している人道的な危機に対して、深刻な懸念を表明せざるを得ない。

地球市民として、またNGOとしてのユネスコクラブ運動のメンバーとして、私たちは沈黙していることはできない。世界の人々の知的精神的連帯に基づき、一刻も早くこれらの地域に真の平和が回復されるよう、心から訴えるものである。

2023年11月28日

世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）第10回世界大会参加者一同
（訳：野口昇・吉田敦彦）

「国を背負う」ということ：個人—国家—人類の3項の狭間で

成案が出来て安堵はしたが、その激論が巻き起こった場面の後味は苦い。（じつは会長選挙のときにも国益の抗争場面が伏線のようにあった。）市民のユネスコ運動の仲間たちであっても、国を背負ったモードに入ったときには、どちらのサイドが正義であるかという論議にハマり込む。それを安易に非難するのはナイーブに過ぎよう。惨禍がリアルな立ち位置に居る国の人ほど、そのモードになる。むしろ傍観者的な自分のリアリティを自問自答する。

夕食の時にベトナムからの参加者たちと隣席になった。熾烈なベトナム戦争の歴史についての語りに耳を傾けたあと、訊ねざるを得ない思いにかられて、若者に質問した。「もし再び戦争になったら戦場に行きますか。」間髪を入れず、「もちろん、国を守る」と返答。年輩のベトナムの会長は、「国を守るのは当然。戦争になれば闘う。だから戦闘にならずに国を守る知恵が必要」と。

ユネスコが大戦後に発足した当時、総会で選ばれた執行委員会委員は、パリ本部の会議で議論するとき、国家の立場を背負って発言するのではなく個人として、一人の人間としてどう考えるかで発言できた。国家間の戦争の反省に立ち、そのスタンスが公的に是認され推奨もされていた。その後40年あまり経って、国家の代表者として出席する立場へと憲章が改訂された。国家を超えた市民一人ひとりの、人類的人道的な立場での連帯は理想主義に過ぎないのだろうか。

国を失った人、失うほどの経験をした人々にとって、祖国のもつ意義は大きい。他方で人の命よりも国家の存続が優先されるのは本末転倒でもある。個人と国家と人類の3項のあいだで、地球市民はどのようなスタンスをとるべきか。ユネスコの理念を共有する仲間と揉み合った論議のなかで、それは未だ人類史は答えを見出しえていない問いなのだと、あらためて思い知ることになった。

* 『教育PRO』令和5年12月号「時評」の拙稿より

京都ユネスコ芸術展 2024

岸上 ゆか

昨年4月1日、2日『京都ユネスコ芸術展 2023』を堀川御池ギャラリーにて開催しました。まだコロナ禍ではありましたが、緩やかに観光客も戻り、平和の祈念に賛同した作品30点(出品者17名)を多くの方々にご高覧いただけた事に感謝申し上げます。今年も引き続き「平和文化のサステナビリティ」及び「こころの中の平和のとりで」をテーマ堀川御池ギャラリーで5月18日(土)19日(日)に開催したく存じます。文化都市「京都」であり、文化庁も京都である事から京都ユネスコ協会の皆さまの作品のご協力を是非お願いします。

作品募集要項

出品部門	平面(洋画、日本画、版画、写真) 立体(木彫、ステンドグラス等)
出品料	3,000円(1人) 出品サイズ 1人3mまで、立体も同じ
出品申込	3月末までにメールかFAXで京都ユネスコ協会へ
展示	5月18日(土)11時~19時、19日(日)11時~17時 搬入 5月17日(金)11時~15時・搬出 19日(日)17時~19時
会場	堀川御池ギャラリー C



世界文化遺産

賀茂別雷神社(上賀茂神社)

宮司 田中安比呂

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 339

TEL (075)781-0011

<http://www.kamigamojinjia.jp>



韓昌祐

代表取締役会長

株式会社マルハン

パチンコ. 銀行. ゴルフ. フード

東京本社/東京都千代田区丸の内1-11-1

パシフィックセンチュリープレイス丸の内28階〒100-6228

TEL. 03(5221)7777(代) FAX. 03(5221)7186

京都本社/京都市上京区出町今出川上る青龍町

231番地 〒602-0822

TEL. 075(252)0011(代) FAX. 075(252)001

第79回日本ユネスコ運動全国大会 in 富士吉田に参加して

加藤 功治

2023年9月9日（土）に山梨県富士吉田市のふじさんホールで第79回日本ユネスコ運動全国大会が開催されました。全国から約400人のユネスコ協会会員などが参加しましたが、地元の人、山梨県や関東の人が多く、近畿からの参加者は少ないようでした。本協会からは私一人の参加になりました。

牧野健太郎氏の記念講演「富士山と浮世絵～お江戸にタイムスリップ、デジタル化が明かした江戸庶民の文化～」では歌川広重の「東海道五十三次」などの浮世絵をデジタル撮影して拡大すると、浮世絵の隅に描かれている庶民の生々し生活が見られるという事を会場のスクリーンで拡大して見せていただきました。浮世絵作家が細かい点まで丁寧に描写している事、それを拡大して見ることによって、素敵なお江戸の生活や生き方まで見えて来るという驚きでした。

パネルディスカッションでは山梨県の先生をコーディネーターにして、地元の高校ユネスコクラブの生徒などがパネラーとして進められました。高校でのユネスコスクールとユネスコクラブの違いを感じました。例えばスクールは同じ学年が対象なので毎年参加者が入れ替わる、クラブは3年間在籍出来るので先輩から後輩に受け継がれる事など。

私は堀川高校のユネスコクラブ員としてユネスコ活動を始めたのですが、現在京都には高校ユネスコクラブがありません、寂しく感じました。

1日開催になったので、富士吉田では開会式の挨拶（55分）と次期開催県への引継ぎ式（20分）の時間を除くと、記念講演（1時間）とパネルディスカッション（1時間半）だけしか無く、内容の有るプログラムが少なく物足りない全国大会でした。

次回は第80回全国大会が2024年11月23日に四国の新居浜で行われます。京都からも多数の方が参加されますように願います。

武田病院グループ 副理事長 **武田道子**
医療法人財団康生会 武田病院 名誉院長



～心がかよう、心が安らぐ、環境づくり～
武田病院グループ



英国ユネスコスクール主催京都行事の後援と交流の協力

香戸 美智子

2023年9月11日～15日に、英国ASPnet ユネスコスクールナショナルコーディネータ主催の平和のための芸術と文化イニシアティブ京都行事が開催されました。世界8か国約50名のユネスコスクールの学習者と教育者・関係者が来京されました。僭越ながら ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)の運営委員長を偶然にも務めさせていただいている関係から文科省の方より7月半ばに急きょお話があり京都でのお出迎えを整え協力させていただくことになりました。その過程で京都を代表する京都ユネスコ協会に後援をお願いしましたところご快諾いただき心より御礼申し上げます。ユネスコ国内委員会(文科省)も後援され、同志社大学共催、京都外国語大学および玉川大学、神戸大学の教員、ユネスコ・パリ本部ASPnet国際コーディネータ等が協力いたしました。

オープニングではプログラムの京都枠として、京都ユネスコ協会の相会長が講演され、小学生のときに戦後ユネスコ運動を始められる本協会初代会長とお会いになった思い出なども話されました。また、会期中は京都のユネスコスクールとの交流も活発に行われました。中学高校生による一燈園の能楽授業や京田辺シュタイナー学校の高校生討議、京都市立安朱小学校の環境教育発表など(京都外大西高等学校は日程的に合わず次回ぜひにとのこと)です。

セキュリティ上の関係からメディア広報はされず全て英語で進行され、おかげさまで無事におえることができました。関係各位には心より感謝を申し上げます。

<p>品質本位の茶づくり</p> <p>宇治 丸久小山園</p> <p>株式会社 丸久小山園 代表取締役 小山元也 〒611-0042 宇治市小倉町寺内86 TEL 0774-21-3151</p>	<p>美術品販売・展示会・イベント・講演会の企画運営・ホームページ制作 広告制作宣伝・カルチャー教室・貸しスペース運営</p> <p>Au rendez vous des artistes ランデヴーギャラリー&カフェ</p> <p>株式会社 アークコーポレーション 代表 山中満子</p> <p>〒602-8158 京都市上京区下立売智恵光院西入 TEL.075-821-7200</p> <p>営業時間 11:00～18:00 無休/月曜のみ予約制</p> 
---	--

懇 話 会

西川 昭寛

10月27日(金)の12時から Impact HUB Kyoto で京都ユネスコ協会の懇話会を開きました。

今回の懇話会では参加者から古着のTシャツを集めてカンボジアへポリオワクチンの支援活動を行いました。



また、イベントとして京都大原の大原シェアファーマー・津坂晋社長から家庭農園の面白さをスライドで紹介していただきまして、外国人の8名を含めた20名の参加者は大変勉強になりました。



取締役社長 福井 正興

京都府木津川市山城町上狛東作り道 11 TEL 0774-86-3901

京都ユネスコ協会 事務局長

加藤 功治

近畿ブロック・ユネスコ活動研究会に出席して

長野 博

令和5年11月12日（日）に奈良県橿原市のかしはら万葉ホールで行われた、近畿ブロックユネスコ活動研究会 次世代へつなげ「未来へのたからもの」に出席しました。

8：50に近鉄京都駅で、前田副会長と江木さんと僕と3人で待ち合わせし、特急電車で大和八木へ行きました。加藤事務局長（大阪経由）と吉田副会長はそれぞれ電車で行かれました。初冬、良い天候の中、沢山の人が集まりました。



10：50 まず最初に、あすか劇団「時空」による「大化の改新」を見ました。

11：40 主催者の日本ユネスコ協会連盟と近畿ユネスコ協議会の挨拶などがありました。近畿ユネスコ協議会挨拶は体調不良で本集会を欠席された相会長の代理として吉田副会長が相会長の原稿を代読されました。

13：00 昼食休憩に入りました。お弁当は柿の葉寿司か幕の内でした。美味しかったです。

13：00 長浜ユネスコ協会・舞鶴ユネスコ協会・伊都高野山ユネスコ協会三者のウクライナ募金活動のいきさつをお聞きしました。

13：20 実践報告飛鳥橿原ユネスコ協会「絵の本ひろば」の取り組みを加藤哲子さんがなされました。

14：10 世界遺産登録推進の取り組みを世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会の方が説明されました。

14：25 基調講演奈良県立橿原考古学研究所の技術アドバイザー西藤清秀さんによる発表「文化遺産継承のため最新技術の応用 シリアと日本の事例から」の長い講演がありました。

15：55 閉会

第62回 京都ユネスコ協会「自然観察展」

事務局

秋恒例行事の「自然観察展」。今年度は例年より遅い11月18日、19日の開催となりました。会場は引き続き元山王小学校体育館です。



時期が遅くなったことが関係したのかは不明ですが、参加校及び作品数は前年より少し減りました。それでも、初めての参加校もあったことは嬉しいです。

応募作品数は、小学生の作品が29校より129点、中学生の作品は10校より57点で、合わせて186点です。

部門別では、生物65点、物理24点、化学55点、地学13点、SDGs29点です。小学生作品は化学、生物部門の順で多く、次にSDGs部門が続きました。中学生作品は、生物部門が4割以上となる状況でした。

今年度、会場設営と片付けにはシルバー人材センターの方に加えて、ボランティアの大学生の力を借りました。大学生には、京都市私立小学校連合会の理科部の先生方に交じって作品受付や返却の手伝いもして頂きました。実動できる会員が少なくなっている中、このように会員以外の方の協力があってお陰で、作業は予想以上に順調に進みました。

各自がテーマを見つけた作品は、夏休み中に時間をかけて作り上げたことでしょう。

どの作品も努力の成果なのですが、展示会前日に、京都市青少年科学センター専門主事の4名の先生などに作品の審査をして頂きました。その中で、小学生の作品28点と中学生の作品14点が優秀作品として選ばれました。

11月18日、19日には全作品を展示しました。2日間で出品者や家族親族、学校関係者や一般の方等、320名程の参観者がありました。

表彰式は行わず、表彰状と入賞記念品は協会常任理事が入賞者のある学校を訪問したり、郵送したりしてお届けしました。

この行事が、少しでも、子どもたちに自らテーマを見つけて追求することの面白さを感じ取る機会となればと思っています。

展示会には寺子屋募金箱を置き、2日間で3,354円の募金を頂きました。後日、日本ユネスコ協会連盟に寄贈しました。

SDGs 達成に向けた次世代育成の活動 2023 (SDGs 協働学習 in 同志社小・中)

京都ユネスコ協会 江木 恵瓊子

2023 年度も同志社小学校での SDGs 協働学習は新 5・6 年生が受け継ぎ、実践しています。さらには、同志社中学の美術科の先生が日本ユネスコ協会主催の「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」に、放課後プロジェクトとして有志を募り参加しました。

このことで、世界寺子屋運動の「書きそんじハガキ・キャンペーン」に同志社小・中連携での取り組みが生まれようとしています。

以下に同志社小の 5・6 年生の主な活動と同志社中の「寺子屋リーフレット制作」についてまとめました。

同志社小では、国連の定めた「国際平和デー」9 月 21 日の昼休みに縦割り班活動として、全児童が中庭のチャペルコートに集い、縦割り班の「号」で話し合った平和メッセージを読み上げ、「号」毎にチャペルの鐘を鳴らしました。

今年も、SDGs 協働学習として京都ユネスコ協会が仲介し、日本国際連合協会京都本部より国連旗を貸し出して貰い、チャペルコートに掲げての国際平和デーの集いでした。



6 年生は岩倉川の清掃活動に毎月取り組み、ゴミ調査を実施してきましたが、お菓子の



プラごみが一番多いとの調査結果を受け、脱プラの実践を話し合い、2 学期、何軒かの生菓子店と交渉し、同志社小の全学年にわたる有志が、お弁当箱やタッパーを持参してお菓子を購入するという実践を展開しました。

「脱プラ・お菓子キャンペーン」です。

学期末 12 月 21 日、6 年各クラスでは実践結果をまとめ、①良かった点 ②改善点 ③3 学期どうするか等について話し合ったことを持ち寄り、学年で共有する会を持ちました。

同志社大学の原田禎夫先生と京都ユネスコ協会の江木が子どもたちの振り返りを見守りました。



頼もしい SDGs 12 (つくる責任つかう責任) プレイヤーの 6 年生でした。

また、**5 年生は**世界寺子屋運動の「書きそんじハガキ・キャンペーン」を 1 月末～2 月にかけて取り組む計画で学習を進めています。

京都ユネスコ協会は「SDGs 協働学習を進めてきた卒業生が同志社中学で寺子屋リーフレットを制作！」との情報を提供しました。その後すぐに小・中学校の先生達で連携の話し合いがもたれました。3 学期には小・中連携の「書きそんじハガキ・キャンペーン」が繰り広げられます。



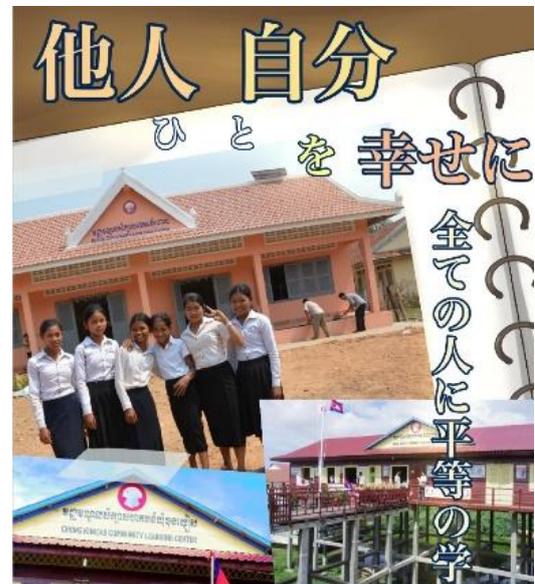
同志社中では、放課後プロジェクトとして有志が集い「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」にチャレンジしました。これは、世界寺子屋運動を学習の題材として、「非識字」という世界の課題を知り、課題解決の方法を考え行動を起こすというSDGs協働学習です。

具体的には、調べ学習を通じて、題材への理解を深めた後、デジタル機器を用いて、書きそんじハガキの提供を呼びかける「リーフレット」を制作し、それを活用して、実際にハガキ集めの活動を行うというものです。

日本ユネスコ協会連盟では同時に、「リーフレットコンテスト」を行いますので、同志社中学では、12月26日、2作品を選び応募しました。

これらの応募作品は、1月29日～2月18日の期間、日本ユネスコ協会連盟のホームページに掲載され、インターネット上での一般投票の後、審査員の選考を受けます。

最優秀賞等の2作品が選ばれます。皆様の投票（コメント付き）をお願いする次第です。以下が同志社中学校のリーフレットコンテスト応募作品です。



日本ユネスコ協会連盟の「書きそんじハガキ・キャンペーン2024」に協力をお願いします！

京都ユネスコ協会はSDGs協働学習をきっかけに「書きそんじハガキ・キャンペーン2024」に参加を申し込みました。お年玉年賀ハガキ抽選発表後の1月20日頃より、2月末までの期間で会員の皆様の協力をお願いする次第です。

他に ●未使用切手 ●プリペイドカード ●図書券 ●収入印紙
●各種金券（おこめ券、旅行券、株主優待券、商品券）等のご支援も募集しています。

皆様には当協会に電話で連絡を頂ければ、回収について相談をさせていただきます。
TEL075-632-9925（午後1：30～4：30）

日 本 語 教 室

西川 昭寛

11月11日（土）に日本語教室を京都府立大学・公共政策学研究所・服部敬子学科長に訪問・見学をして頂きました。お礼のメールを頂きましたので紹介しておきます。

「昨日は見学参加に加えてインタビューにもご対応いただき誠にありがとうございました。普段、博士課程・学生の勝田さんがボランティアに行っている教室の話はよく聞いていましたが、貴教室ではボランティアの先生方と生徒さんたちが集団的に和気藹々と交流をされていてずいぶん雰囲気が違うように感じました。同じ一つのトピック・教材で、日本語の習得レベルが異なる生徒さんたちに指導ができる、とご説明いただいた点は、私が研究しております保育の営みと共通すると思いました。同じクラスでも年（月）齢にはほぼ1年の幅があり、家庭背景も言葉の理解等多様な子どもたちに対して、個別指導ではなく、同じ遊びのなかで一人ひとりが楽しめるように工夫をされているという点です。コミュニケーションは1対1よりも第三者が介在するほうが豊かになり、明確に意味は理解できなくても他者の会話を聞くことで聴く力も育まれるように思います。何より、先生方がとても温かく楽しそうに学びあっておられるところに大きな魅力を感じました。他の教室ではオンラインで行われていたりしてなかなか見学させていただくことも難しい状況なのですが、今回の見学を参考にして指導してまいります。」

京都府立大学 公共政策学研究所・服部敬子」

在日本大韓民国民団京都府地方本部常任顧問
三越土地株式会社 代表取締役会長

王 清 一

〒604-8483 京都市中京区西ノ京南上合町38
TEL 075-802-2331 FAX 075-802-233

「縁彼人俱」(encouraging) walk

前田 久夫

ひと・まち交流館で展開する私達の英語教室は団塊の世代英語教室です。受講生の中には病気を抱えている方もおられます。その中の一人が英語教室開講を強く要請された K さんですが、K さんは今闘病生活を送られています。博学でユーモア感覚溢れる K さんから今まで頂いてきた笑いや活力をお返ししようと、「縁彼人俱」(encouraging) walk と銘打ち、11月24日に植物園散策を行いました。見事な紅葉、目に鮮やかな真紅の薔薇、色とりどりの菊、微風に揺れる秋桜、世界最大の花と言われるラフレシア(refflesia)や文字通り徳利の形をした徳利椰子(温室内)などを鑑賞し、実に楽しいひと時(We had a whale of a time.)を過ごしました。足の疲れを癒すために長椅子に腰を掛け、行ったのが英語の学習。事前に用意していた「色に関する英語のイディオム」に挑戦してもらいました。問題を1つ紹介しますと、Out of the (): Means unexpectedly. “I got a phone call from a long-lost cousin out of the () last week.” の空欄に与えられた7色の英単語から適当な色を選んで空所を埋めるという問題です。全問題数は13でしたが、受講生はかなり手子ずりました。

散策後は近くの「キャピタル東洋亭」で大人気の定食を堪能し(We had a capital lunch.)、その後場所を近くの進々堂に移し、お茶やコーヒーを飲みながら2時間程会話を楽しみました。

Kさんを元気づけるつもりでの散策でしたが、終わってみればいつものように私たちが元気づけられた1日でした。

2024年4月からは中学3年生を対象に「会話に役立つ英文法」の講座名で受講生を募集します。文法嫌いの生徒の助けとなるよう、また文法学習を通じて読み、書き、聞き、話す4技能アップにつなげたいと考えています。

<p>小林祥造 Shozo Kobayashi</p> <p>〒602-8228 京都市上京区猪熊通元誓願寺南入ル 473 tel 075-441-3317 fax 075-441-3389 堀川今出川西陣織会館より南へ徒歩3分</p> <p>日本国天皇より皇居で叙勲 瑞宝双光章受賞 法務大臣表彰受章 京都府スポーツ賞受賞</p> <p>京都ユネスコ協会監事 立命館大学校友会名誉幹事 平安講社特別有効章受章 菊桜会員平安神社務所</p>	<p>京都ユネスコ協会 常任理事</p> <p>長野博</p>
--	---------------------------------

今後の活動予定

- 1月21日 新年初顔合わせ会 元山王小学校 プレイルーム
次世代によるトークと実践活動の交流セッション
- 2月11日 理事会 元山王小学校 プレイルーム
- 2月末 ユネスコ世界寺子屋運動感謝状贈呈
同志社小学校 京都文教短期大学附属小学校 同志社中学校
- 3月 SDGs 活動表彰
同志社小学校 京都文教短期大学附属小学校
- 5月18日、19日 芸術展 堀川御池ギャラリー
- 5月 総会 懇親会
- 5月 理事会
- 5月 出前授業
同志社小学校 京都文教短期大学附属小学校
- 10月 自然観察展
- 10月27日 近畿ブロックユネスコ活動研究会 高野山
- 11月23日 ユネスコ運動全国大会 愛媛県新居浜市

英語教室 毎月 第一第三土曜日 事務局において
毎週 金曜日 ひと町交流館

日本語教室 毎月 第二第四土曜日 事務局において



KYOTO UNESCO ASSOCIATION
京都ユネスコ協会

〒601-8004 京都市南区東九条東山王町27 元京都市立山王小学校内
TEL/FAX 075-632-9925 E-mail kyoto@unesco.or.jp
(平日 13時30分~16時) URL <https://kyoto-unesco.jp/>